

■オーストラリア：ゴーゴン LNG プロジェクトで日本企業が長期契約締結

大阪ガスと東京ガスは、それぞれ 2009 年 9 月 10 日と 9 月 14 日に、豪州北西沖に位置する世界最大規模の天然ガス開発プロジェクト「ゴーゴン」について、米石油ガス大手のシェブロンと、2014 年から 25 年間の LNG 長期購入契約を結んだと発表した。大阪ガスの契約量は年間約 137.5 万トンで、1.25%の権益を取得、東京ガスの契約量は同 110 万トンで、権益は 1%である。今後、中部電力もシェブロンと年間 150 万トンの購入契約を締結することになっているという。同プロジェクトの権益は、シェブロンが 50%、シェルとエクソンモービルがそれぞれ 25%を保有し、年間生産能力は 1,500 万トンとされ、このうち約 400 万トン弱が日本向けに供給されることになる。一方、中国のペトロチャイナは既に、シェルから年間 200 万トン、エクソンモービルから同 225 万トンの供給を受ける契約を締結しており、日本の 3 社を上回る最大の買い手となる見通しである。この他、韓国 GS カルテックスやインド企業などとも長期契約が締結されている。これについて、2009 年 9 月 11 日付のフィナンシャルタイムズ紙は、豪州のシンクタンク Lowy Institute およびコンサルティング会社 Wood Mackenzie の見解を引用し、今後予定されている豪州および周辺諸国の LNG プロジェクトは、これまでアジアで最大の LNG の買い手であった日本に代わり、中国が重要な位置を占めるであろうと指摘している。